

神戸市感染症発生動向調査週報

平成30年2月14日 作成

神戸市感染症情報センター

報告定点数 48 ケ所 (内訳) 東灘6, 灘3, 中央3, 兵庫3,
設置定点数 48 ケ所 北8, 長田3, 須磨6, 垂水8, 西8

第 6週

平成30年2月5日

～

平成30年2月11日

インフルエンザ

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	80歳～
インフルエンザ	278	116	115	67	232	133	273	363	443	2,020	3	8	60	53	67	98	143	141	165	158	127	398	103	63	93	117	99	74	36	14

小児科

報告定点数 31 ケ所 (内訳) 東灘4, 灘2, 中央2, 兵庫2,
設置定点数 31 ケ所 北5, 長田2, 須磨4, 垂水5, 西5

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～							
RSウイルス感染症	3		1		2			4	5	15	2	2	5	3	3																
咽頭結膜熱	1	1			1	1	2			6			1	2		1	1													1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	11	1		6	2	2	8	15	54		1	2		3	5	9	10	7	3	1	11							2		
感染性胃腸炎	20	1	9	3	30	13	24	56	16	172		8	22	12	16	14	9	12	7	6	3	23	5						35		
水痘	5		1		1			2	5	14	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1										
手足口病										0																					
伝染性紅斑										0																					
突発性発疹	1						1		2	4		2	2																		
ヘルパンギーナ										0																					
流行性耳下腺炎	1					1				2																					

インフルエンザの定点医療機関あたりの患者数が、42.1人となり、少し減少しました。しかしながら、依然として患者数は、例年より多く、基幹定点医療機関からインフルエンザ入院患者数が毎週20人程度報告されています。入院事例では、インフルエンザA型およびB型のどちらも報告があり、注意が必要です。また、全国的にもA(H1N1)pdm09亜型とB型(山形系統)が流行しており、次いでAH3亜型が多く検出されています。そのため、2つの型に同時に感染したり、一度、罹患した人でも別の型に再度、感染することがあります。十分な休養と栄養をとり、からだの抵抗力を高めましょう。

※百日咳は、平成30年1月1日から全数報告となりました。

報告定点数 10 ケ所 (内訳) 東灘1, 灘1, 中央1, 兵庫1,
設置定点数 10 ケ所 北1, 長田1, 須磨1, 垂水1, 西2

眼科

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～	
急性出血性結膜炎																														
流行性角結膜炎	1									1																			1	

【定点機関から報告されたその他の感染症情報】

東灘区○ノロウイルス感染症3例:0歳10か月 男、
0歳11か月 女、1歳 女
○ロタウイルス感染症1例:5歳 男
○マイコプラズマ感染症1例:14歳 男
灘 区○マイコプラズマ感染症+インフルエンザB型
(混合感染)1例:11歳 男
北 区○ノロウイルス感染症1例:2歳 女

【市内の感染症の状況】

○インフルエンザ **警報**
今週のインフルエンザ患者の報告は、定点あたり42.1人(先週50.4人)で、先週より減少し、市内の学校園の学級閉鎖のクラス数も減少傾向です。しかしながら、まだ、警報水準(定点あたりの患者数が30人)を超えているため、感染に注意しましょう。
(インフルエンザ定点医療機関から報告された迅速キット陽性情報)

A 型	B 型	A型およびB型
471	1292	3

[季節性インフルエンザ流行状況](#)

[インフルエンザ総合対策 厚労省HP](#)

○侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症(五類全数把握疾患)の届出が増加しています。昨年の第47週(2017年11月20日～11月26日)から毎週、医療機関から届出されています。今年に入ってから、1月だけで13例の届出があり、うち、11例は、60歳以上の報告です。

【お知らせ】 バックナンバーは神戸市のホームページからご覧いただけます。

[神戸市 発生動向【検索】](#)

[「I」情報センターホームページを開設しています。詳細はこちらをクリック](#)

神戸市感染症発生動向調査週報

神戸市感染症情報センター 2018年2月14日作成

全数把握対象感染症発生状況 (二類感染症 結核)

結核届出患者数は8人(うち潜在性結核感染症1人)です。

全数把握対象感染症発生状況 (四類感染症 レジオネラ症)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
女	80代	不明	2018年2月6日	2018年2月6日	肺炎型	尿中の病原体抗原の検出(イムノクロマト法)	発熱、肺炎	不明	-

全数把握対象感染症発生状況 (五類感染症 後天性免疫不全症候群)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	40代	-	2018年1月31日	2018年2月7日	無症候性キャリア	PA法 Western Blot法	-	同性間性的接触	

全数把握対象感染症発生状況 (五類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	80代	2018年2月4日	2018年2月4日	2018年2月5日	-	分離・同定による病原体の検出(血液)	肺炎・菌血症	不明	ワクチン接種なし

全数把握対象感染症発生状況 (五類感染症 梅毒)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
女	30代	-	2018年1月5日	2018年1月29日	無症状病原体保有者	自動化法 TPHA法 FTA-ABS法	なし	異性間性的接触	-

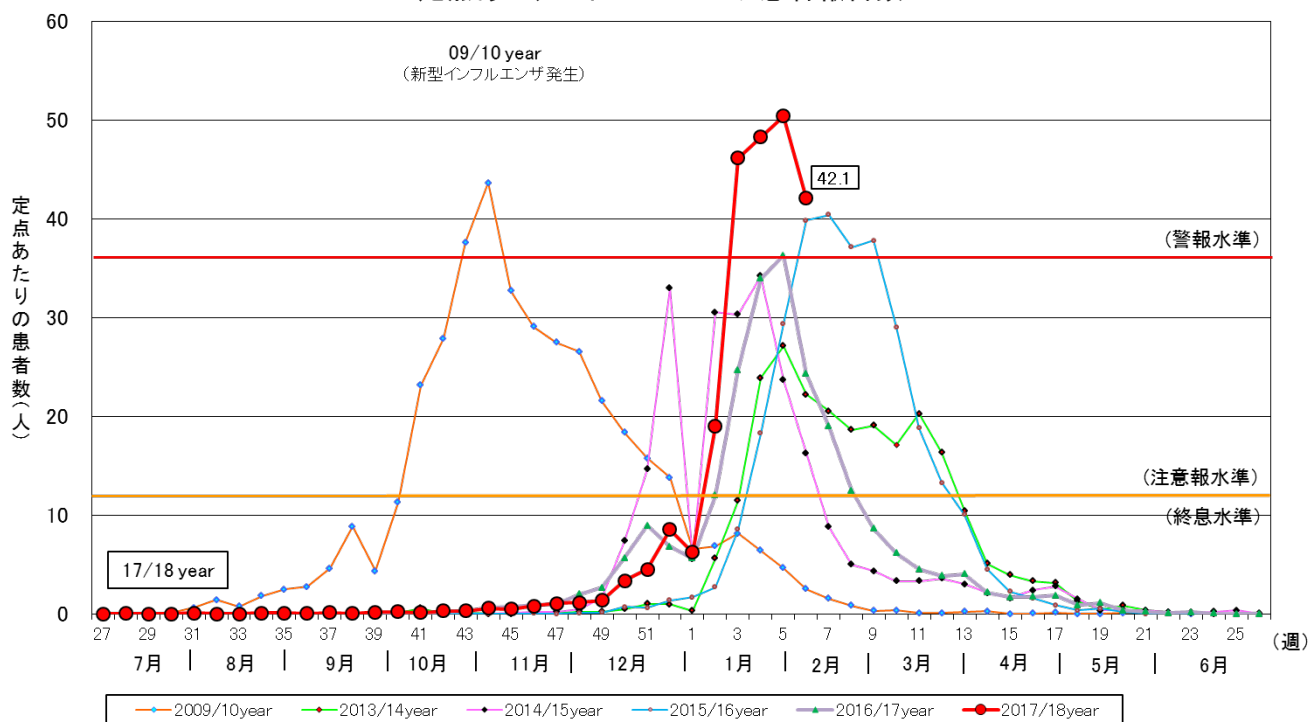
神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況

病原体	検体	区	状況
A型インフルエンザウイルス(H3亜型)	鼻腔ぬぐい液	須磨	3歳8ヶ月 男(1/29採取、39.4℃、インフルエンザ、ワクチン接種歴不明)、家族内発生
B型インフルエンザウイルス(山形系統)	鼻腔ぬぐい液	西	16歳 男(1/28採取、39℃、インフルエンザ、ワクチン未接種)
	鼻腔ぬぐい液	須磨	7歳 男(1/29採取、37.7℃、インフルエンザ、ワクチン接種済み)
	鼻腔ぬぐい液	須磨	65歳 男(1/29採取、38.2℃、インフルエンザ、ワクチン接種歴不明)
	鼻腔ぬぐい液	垂水	42歳 女(1/31採取、37.6℃、インフルエンザ、ワクチン接種歴不明)、家族内発生
RSウイルス	咽頭ぬぐい液	東灘	1歳7ヶ月 男(1/31採取、39.1℃、RSウイルス感染症、下気道炎)
	鼻腔ぬぐい液	北	1歳2ヶ月 女(2/1採取、38℃、RSウイルス感染症)
ノロウイルスGII	便	垂水	9ヶ月 女(1/25採取、発熱なし、感染性胃腸炎)
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(<i>Enterobacter cloacae</i>)	菌株	北	89歳 女、尿路感染症、AmpCβラクタマーゼ遺伝子EBC型陽性
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(<i>Enterobacter cloacae</i>)	菌株	中央	76歳 男、胆のう炎、菌血症、AmpCβラクタマーゼ遺伝子EBC型陽性

環境保健研究所からのコメント:

12/25-1/30に採取された検体から分離したA型インフルエンザウイルス(H1pdm09亜型)18株について、抗インフルエンザ薬(オセルタミビル)の効果調べる試験を実施したところ、17株が感受性、1株が感受性と耐性の混合でした(1/25に薬剤未投与の患者から採取した検体より分離)。国立感染症研究所が実施する例年の調査では、薬剤投与の有無にかかわらず、約1%の耐性A/H1pdm09亜型ウイルス(感受性と耐性の混合を含む)が検出されています。

定点あたりのインフルエンザ患者報告数

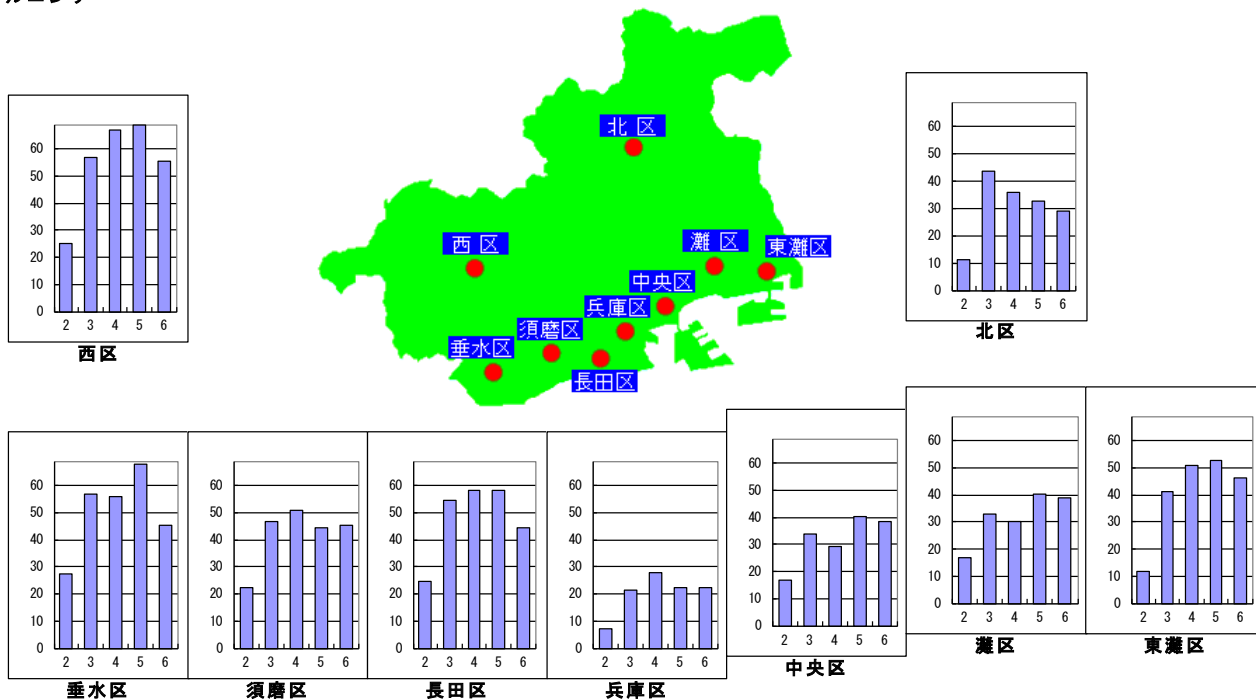


疾病別・地区別・定点あたり患者数マップ

第 2 週 平成30年1月8日

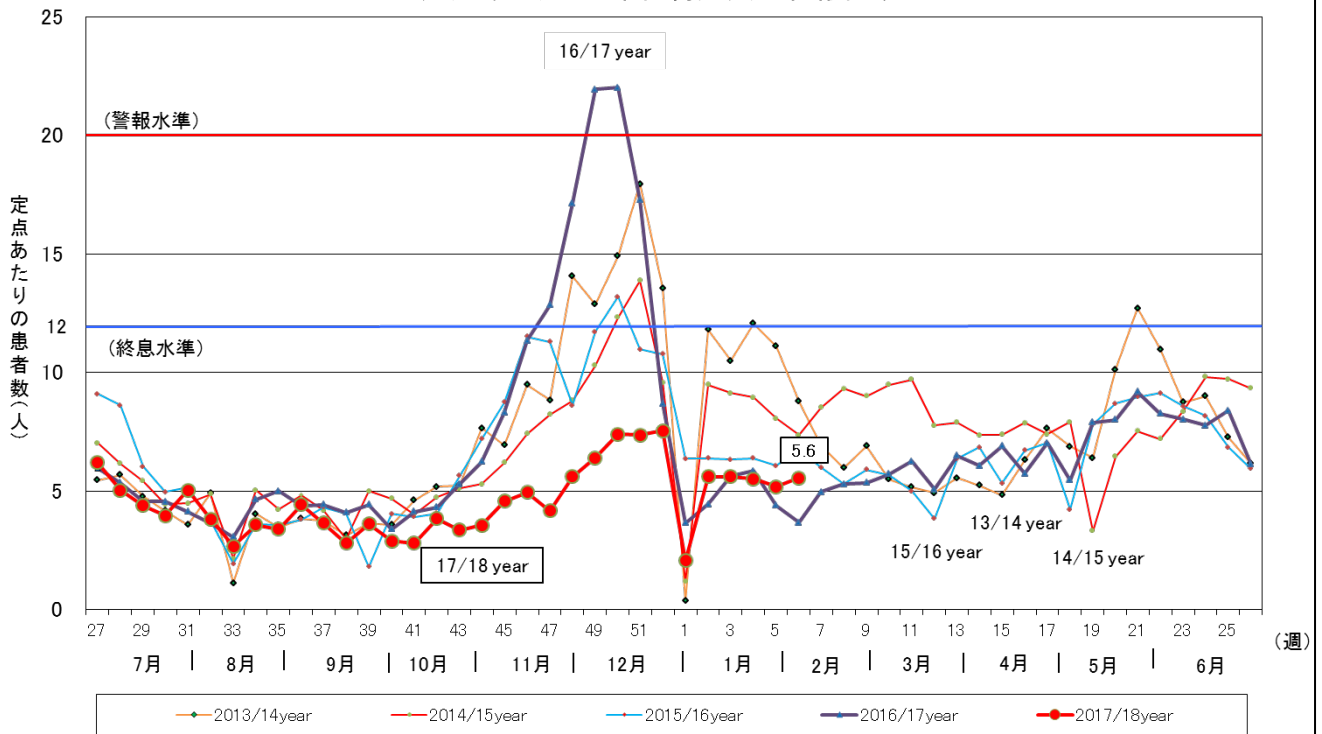
～ 第 6 週 平成30年2月11日

インフルエンザ



※ このマップは各区の定点報告医療機関の報告数を平均シグラフ化したものです。各区の定点医療機関数は区の人口に合わせて設定しています。すべての医療機関からの報告ではないため、区内の経時的な傾向を把握することはできませんが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。

定点あたりの感染性胃腸炎患者報告数

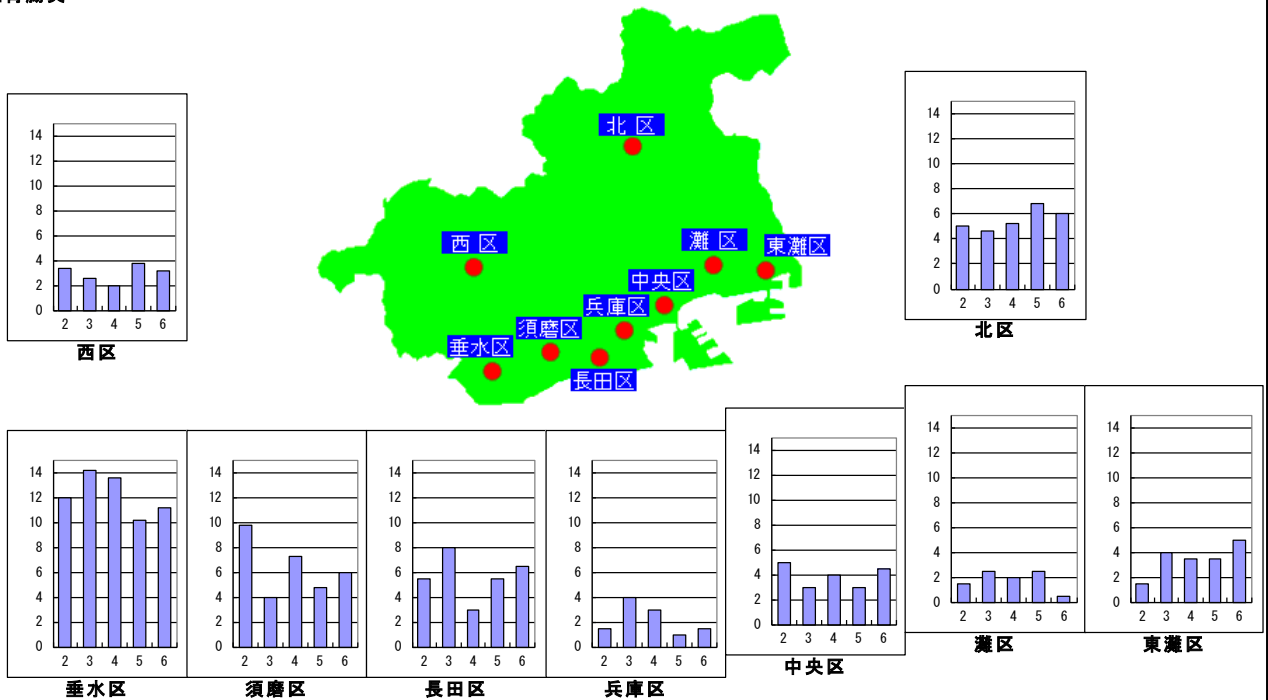


疾病別・地区別・定点あたり患者数マップ

第 2 週 平成30年1月8日

~ 第 6 週 平成30年2月11日

感染性胃腸炎



※ このマップは各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。各区の定点医療機関数は区の人口に合わせて設定しています。すべての医療機関からの報告ではないため、区内の経時的な傾向を把握することはできませんが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。